

■ドレッサーセット



1912~1940年

お白粉入れ、毛髪入れ、リングホルダー、ハットピンホルダーなど、女性が化粧台まわりで使うアイテムがひとつの盆に載り、一対の燭台とセットになっている。

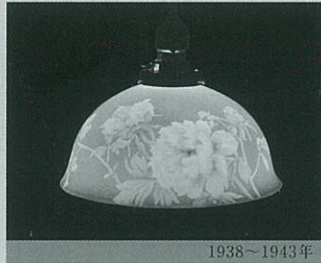
■ビスクドール (陶磁器製人形)



1916~1922年

アメリカの少女たちが遊ぶ玩具で、頭部や手が磁器で作られている。日本陶器敷地内に設置された「日本玩具株式会社」で生産された。人形の首後部に森村のマークがあるので「モリムラドール」とも呼ばれる。

■電灯笠 (金属代用品)

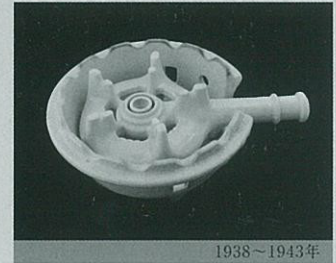


1938~1943年

金属製電灯笠の代用品として磁器でつくられたもの。職人による手描きや転写で画付けが施されている。芝浦電気(現:株式会社東芝)を通して販売された。

※日中戦争が激しさを増してきた1938(昭和13)年、政府は軍用に使用するため、家庭用品の製造に金属の使用を制限した。そのため、いままでも金属で作られていたものが別素材で製造されるようになり、成形性の良い陶磁器で多くの製品が作られた。

ガス
■瓦斯七輪 (金属代用品)



1938~1943年

金属製瓦斯七輪の代用品として陶器で作られたもの。京都ガスをはじめ大都市のガス会社で販売された。

■オープンチャイナ (耐熱磁器)



1941~1943年

オープン料理用に開発された耐熱磁器のクッキングアイテム。Noritake Oven Chinaの名で主にオーストラリアに輸出された。

■ホーローウェア



1972年

日本ガイシの子会社であった日本フリットに資本参加し、独自に開発したホーロー用の転写紙を用いて、画を焼き付けた高級ホーローウェアの製造を開始した。

■手あぶり (火鉢)



1912~1957年

当時の日本の標準的な暖房器具。画付け職人による手描きの製品から食器と同画柄の製品まで、大小さまざまなサイズの製品が作られた。

■電話機



1976年

ノリタケが磁器で外装を作り、食器と同じ画柄で加飾した電話機。株式会社田村電機製作所(現:サクサ株式会社)から「陶器シリーズ(野ばら)」として販売された。

■スタッキング碗皿

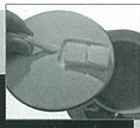
(航空機内用)



1960年代

スペースの限られた航空機内で、安定してスタッキング(積重ね)収納ができるようにカップの縁下と把手の下部がデザインされた機内サービス用の食器。

■蓋付き碗皿



1960年代

温かい飲み物をさめにくくするために、碗皿に蓋をつけた製品。寒い地域の百貨店が接客用に特注した。蓋には角砂糖を載せるくぼみがある。

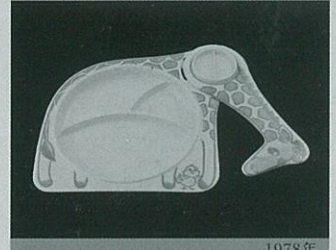
■スナックセット



1950~1960年代

コーヒーや紅茶とともに、お菓子(スナック)やトーストを楽しむための食器。カップとお菓子が両方載せられるように、受け皿がトレー状になっている。ティー&トーストセットともいう。

■うごく子供食器 (メラミン製ランチ皿)



1978年

目で楽しみながら食事をする子供たちのために、遊びの要素を加えたメラミン製の子供食器。首部を手で動かして遊ぶことができる。

■耐熱強化磁器

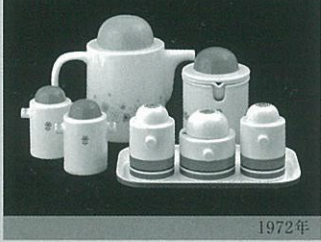
「プログレッションチャイナ」



1965年~1983年

冷蔵庫やフリーザーから取り出して、すぐに直火やオープンで調理ができ、そのまま食卓で使用できる食器。この画期的な食器は世界13カ国で特許を取得した。

■卓上小物



1972年

テーブルトップのファッション化を狙い、若者向けのモダンなデザインで展開された磁器製卓上小物。調味料容器は専用のノリタケメラミン製トレーに載せ食卓テーブルに置かれた。

ノリタケの森クラフトセンター内 ノリタケミュージアム

〒451-8501 名古屋市西区則武新町三丁目1番36号

TEL052-561-7114[代] FAX052-561-7276

■ 交 通 ■ 地下鉄東山線「亀島」駅下車2番出口より徒歩5分
JR名古屋駅〜徒歩15分、名鉄栄生駅〜徒歩15分

■ 駐 車 場 ■ 有り

■ ホ ー ム ペ ー ジ ■ <http://www.noritake.co.jp/mori/>

